

Vol. **108** 2017. 5 (隔月刊)

社会福祉法人 一心福祉会

<https://www.isshinfukushikai.or.jp/>

# いっしん

グループホーム **きじよか**

社会福祉法人  
一心福祉会  
(0980)44-3015



撮影場所：グループホーム きじよか



# ～のどかな景色と大自然の中に～

## 認知症対応型グループホーム「きじよか」開所



開所当日、入居者を笑顔で迎える職員（平成 29 年 4 月 3 日）

待ち望んでいた福祉施設が喜如嘉地区に完成しました。のどかな景色と大自然の中に建てられた「グループホームきじよか」は今、ご家族や地域の方の面会や見学に来られる方が多く、地域の皆様には見学していただくことで、グループホームのを知って頂く良い機会になっています。一人ひとりが出来ることを継続していけるよう、住み慣れた地域とつながりを持ち続け、その人らしい暮らしを支援し、家族の一員として生活を共にしていきたいと思えます。

「ここに住んでよかったね」と思ってもらえるホーム作りをご家族や地域の方々のご協力を受けながら、職員一同頑張っていますので、今後共よろしくお願いいたします。

管理者 金城たえ子

### 大宜味一心会の皆様と交流

四月九日、大宜味一心会の定期総会が那覇市のサザンプラザ海邦で開催されるに伴い、記念講演と題して、当法人の仲本一夫理事長による一心福祉会の現状についての報告等がなされた。

郷里を想う大先輩方の大変なご苦労があつて現在の一心福祉会があることなど、各事業所毎の動画も交えながら説明が行われました。



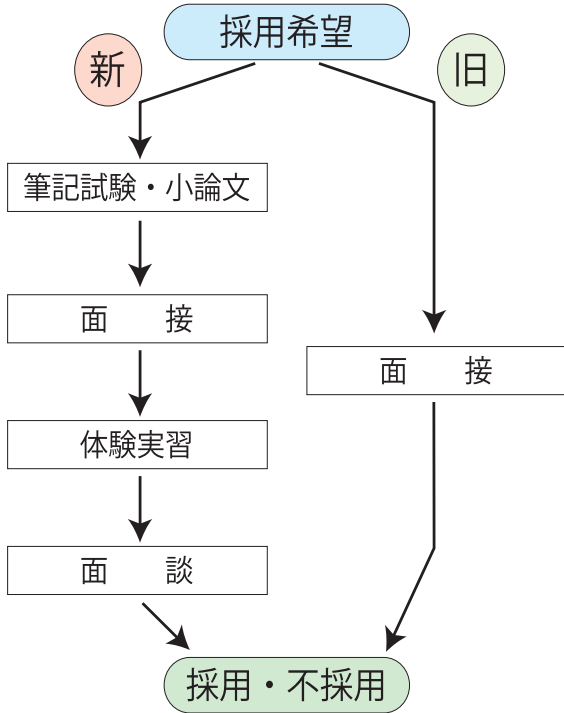
講演会の中で、仲本理事長より職員紹介の一コマ

総会後の懇親会の場において、皆様より激励を頂き、今年度新たに事業をスタートした認知症対応型グループホームきじよかの事業説明を求める声などもありました。

郷里を離れてご活躍されている皆様を前に、福祉で村興しを基本理念としている法人の現状を紹介できたことは我々法人にとつて大変意義深いものとなりました。

一心福祉会

職員採用方法が変わる！



平成二十九年から当法人では新規職員採用方法を見直し新たな制度を設けました。採用希望者には筆記試験と小論文を行っていただき、その後、面接を行います。

これまでではその後に内定者通知を出しておりました。

今回からは、一〜二日間の法人事業所内にて体験実習を行っていただき、その後、個人面談にいく予定です。

より内定者を決定しました。これは採用決定し実際に現場に入ってからミスマッチを防ぐとともに、法人側も実際の現場での適応能力を見るところという観点からです。

今回多数の採用希望者がこの制度にて内定し見事に新規採用となりました。さらに、新規採用職員には新たにメンター制度を導入し定着を図っていく予定です。

メンター制度導入

メンターとは

新人職員に対して、仕事上の指導、助言者、キャリア形成をはじめ、生活上の様々な悩みや相談を受けながら育成にあたる。

メンター制度



導入の背景

法人事業計画の重点実施事項の一つ、人材育成プログラムの一環として新人職員の定着を目標としている。

内容

1. メンターと新人職員は1対1で面談（1、2週間に1回、30分程度）
2. 面談後面談ノートを課長に提出。
3. 1ヶ月目、2ヶ月目、3ヶ月目にチェックシートを新人職員→メンター→リーダーまたは主任が記入。
4. 6ヶ月後に報告会。





大城正秀氏絵画展  
グループホーム きじよか  
開所記念絵画展



絵画展初日、ご本人もテープカット

平成二十九年四月十一日から二十七日の間、デイサービス廊下にて大城正秀氏の絵画作品展を開催しました。

四月一日より事業開始したグループホーム『きじよか』の開所記念として開催しました

三十三点の絵画が所せましと壁一面に展示され



利用者と一緒にゆったりと

デイサービスを利用する方や老人ホームを訪れるご家族、地域の方々が作品を鑑賞していました

昔懐かしい風景や伝統行事を描いた作品など鮮やかな色使い、正確な描写に作品を眺めながら「素晴らしい」と皆感動していました。



ボランティアの皆さんに感謝の気持ちを伝えました

平成二十九年三月二十四日、一心療護園食

一心療護園

ボランティア感謝の集い

堂ホールにて「ボランティア感謝の集い」が、開催されました。この集いは、平成二十三年からスタートし、今年で六回目の開催となります。

今年は琉舞や、フォークソング、カラオケ、三線等が披露され、三時間という時間をあつという間に過ごす事が出来ました。



最後は皆でカチャーシー



オクラレルカ見学

デイサービス

デイサービスでは、四月十九日に、喜如嘉ター

春の陽気に誘われて  
オクラレルカ見学



ブクヘオクラレルカ見物へ行きました。例年より開花が遅れているとの事で心配されましたが、一面薄紫色の満開の花に皆感動。休憩用のテントの中よりしばし鑑賞。きれいな景色に興奮したのか、ティーモーター（小躍り）される利用者の姿も見られました。



思わず踊りだす利用者様



えすの里

# 塩屋湾一周 トリムマラソン大会



楽しむぞ〜♪



えすの里、最速ランナー

四月十七日、塩屋湾一周トリムマラソン大会  
3kmの部にえすの里では五十名の利用者が参加  
しました。  
スタートと同時に勢いよく走る利用者さん、  
ウォーキングをする利用者さんと様々ですが沿  
道の声援を受けながら申告タイムを目標に新緑  
の塩屋湾を楽しく完走する事が出来ました。  
今回は申告タイムとのタイム差十二秒の方も  
おり、「惜しかったね」と笑顔で完走証を見  
せ合いながらトリムマラソンを楽しみました。  
応援に駆けつけて頂いたご家族・地域の皆  
様、ありがとうございました。

〜ピタリ賞を目指して〜

## 家族会総会

四月九日(日曜日)今年度  
より家族会大掃除と家族会総  
会を同日開催することにより  
総会に多くのご家族が参加し  
ました。  
又、平成十年より家族会の  
きまりで総会を開催していま  
したが今回より家族会会則を  
作成し総会にて家族の承認を  
得て年締めで終えていた期間  
を四月スタート、年度末締め  
の事業・決算報告を実施する  
ことになりました。前年度の  
中村会長はじめ役員の皆さま  
大変お疲れ様でした。

やんばるの家



家族会総会にて施設長挨拶

## やんばる歌の仲間たち

四月二十五日(火曜日)  
にデイサービスにおいて  
「やんばる歌の仲間たち」  
による歌謡ショーがあり  
ました。  
メンバーは名護市や、  
国頭村、大宜味村、東村  
に在住し歌をこよなく愛  
する方々で、これまでも  
様々なイベントへの出演  
や施設での慰問等の活動  
をしてきたそうです。  
ステージにて披露され  
る曲はどれも懐かしく、  
表情豊かにプロ顔負けの  
歌唱力で会場の皆さんを  
多いに魅了し、約九十分  
が短く感じられるほど、



プロ顔負けの歌声や衣装にうっとり

楽しいひと時を過ごす事  
となりました。  
又吉 智枝子



家族会新役員挨拶



デイサービス利用者

宮城 サダ (96歳)

塩屋在住

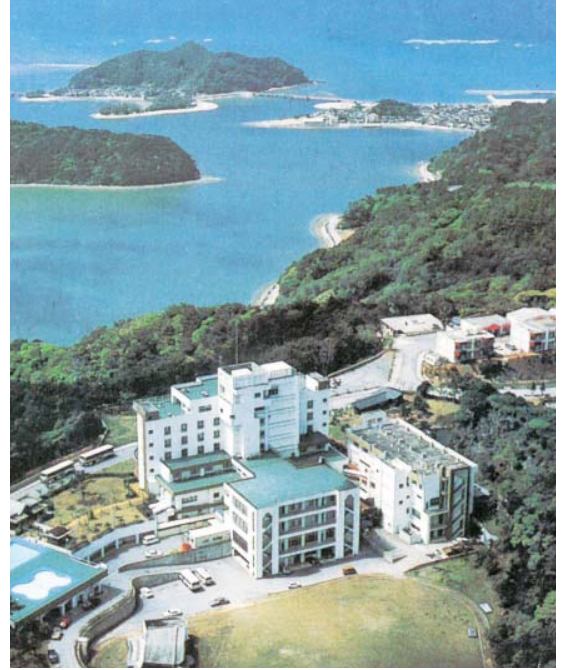


人生はたった一度と言われますが、その人の歩んだ人生は唯一のもの。その貴重な体験を「私のヒストリー」(ライフヒストリー)と題してご紹介する企画です。

六十代の頃、押川の山の上に当時あったホテルで三ヶ年働きました。ホテルの庭の草取りや忙しい時期にはホテル内のベットメイキングや掃除もしました。みかんの時期になると押川の山のアちこちにある社長のミカン畑に駆り出され、収穫の手伝いまでしました。

塩屋の人たちは結婚式やお祝いによくホテルを利用していたのでお客さんも多く、ホテルは繁盛して毎日忙しかったけれど難儀ということはわからなかった。今年、桜の時期にデイサービスのドライブでホテル跡地に行った時、ずいぶん姿が変わっていて「昔はもっときれいだったのになあ」とさみしくなりました。デイサービスに通っている人も何人か一緒に働いた仲間がいます。また、今は違う仕事をしている若い人も、たまに会うとよく声をかけてくれます。ホテルで働けて幸せでした。

### 友善ホテルの想い出



当時のホテル全景



舞台上で会場の皆さんとノリノリ!!

グループホーム えすの里

### 追分満点のロマンスライブイベント!!

グループホームえすの里ではデイサービスおおぎみ十周年記念事業のチャリティーライブ鑑賞に行きました。

「ロック」というジャンル自体聴いた事もない利用者さんが殆どでロックバンド「紫」のライブではあまりの迫力に圧倒され、落ち着かない様子でした。後半は曲に合わせて

舞台上で地域の皆さんと一緒にダンスしてノリノリ!最後には腕を回して決めポーズをとる程の盛り上がりでした。

ライブ終了後に「すごい迫力で胸がドキドキしたよ」「知らない歌ばかりだったけど踊って楽しかった」と皆さん満足した様子でした。



一心福祉会

「新人研修」



平成二十九年度新任職員研修会が四月二十六日（水曜日）一心療護園会議室にて行われました。

今回の研修から、恒例となっている法人沿革や法人就業規則の説明、先輩職員の体験発表に加え、後半はグループワークを設けました。新任職員は六名ずつ三グループに分かれ、「一年後の自分はどうなりたいか」をテーマに付箋紙を用いて

自分の意見をグループ内で話し最後は代表が全体発表するというものでした。各グループには、ファシリテーター（調整役）を配置しスムーズなワークを促しました。

このワークの目的は自分の言葉で伝える、相手を知る、また自分や相手を受け入れる実践練習です。「仕事に慣れ資格試験を目指している」や「十キ口痩せている」など

様々な一年後の自分の姿をイメージされています。

初めは緊張していた職員も次第に打ち解け和気あいあいとしたこれまでにない新任研修が出来ました。今年度から法人研修委員会が立ち上がり、年間を通じて、様々な法人研修が予定されています。



先輩職員による体験発表



ファシリテーターを配置してのグループワーク

「地域に根差した施設をめざして」

小規模 あがり

小規模あがりは今年三月で満五年を迎えました。これまで地域に根差した施設を目指して取り組んで来ましたが、安定しない時期もありました。現在、利用者様が二十五名の登録で満床になっており、やっと地域に「あがり」が定着したように思います。通い、訪問、

泊りとサービスが柔軟に受けられ、顔馴染みの方とゆったりした空間の中で会話を楽しまれている姿を見るたびに「あがり」は地域と家庭を結ぶ、なくてはならない施設だと痛感しています。これからも利用者様や家族の方が安心して頂ける施設を目指し、地道な活動を続けて行きます。



昔話に花が咲く♪



103 歳池原直吉様の講話を聞く





オクラレルカ

喜如嘉ターブク（田んぼ）一面が薄紫色のジュータン

小規模 いっしん



ポッカポッカ陽気で外出しました。



グループホームきょかにて、にぎやかに交流しました。

やんばるの家



天気良く、少し日差しが強かったです。



東村民謡愛好会によるつつじ音頭